

滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目1番1号 滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会 発行責任者／戸田 茂
URL: <https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

目次	経済学部の教育研究について・・・1～2	国際交流・・・・・・・・・・・・・・3～5
	データサイエンス学部の	ゼミナール紹介・・・・・・・・・・・・5～7
	・教育研究について・・・2～3	資格取得等報奨制度について・・・・7
	安心安全なキャンパスづくり・・・・3	報奨金給付者の声・・・・・・・・・・・・8

経済学部の教育研究について

経済学部長 中野桂



10月1日より経済学部長に就任した中野桂と申します。平素より、滋賀大学経済学部の教育研究に協力をお願いし、心より感謝を申し上げます。

ご存知のように本年は新型コロナウイルス感染症の問題で、過去に経験をしたことがないような新学期のスタートとなりました。振り返ってみれば、入学式は中止となり、期待に胸を膨らませていた多くの新入生をがっかりさせてしまったことをお詫び申し上げます。

滋賀大学では学生の健康と安全を第一に考え、早々とオンライン授業に切り替える方針を決定し、通常より遅れることを2週間で授業を開始することができました。その期間に教員もオンライン授業をするための教材を揃えたり、様々なソフトウェアの使い方を習得したりして、講義に臨みました。また学期が始まる前から、たびたび学生にアンケート

をとり、オンラインによる授業の実施状況を把握し、問題点などを洗い出して改善を積み重ねて参りました。春学期の終盤には、一部授業ではあります。対面授業も行いました。

財政的に困窮している学生に対しては、文部科学省実施の「学生支援緊急給付金」を一定の要件を満たす学生360名に対して10万円ないし20万円を給付するとともに、本学独自の支援として前期授業料の全額免除を36名に対して行いました。日本学生支援機構から緊急的に一定期間（令和3年3月まで）、特別の貸与を行う「緊急特別無利子貸与型奨学金」の募集もありました。そのほか、希望する学生にはパソコンの貸与なども行いました。

また、6月には、滋賀県の生活に困る一人暮らしの県内の大学生等向けに近江米や食料品等の無償支援が企画され、本学ではそのうち240人分の支援を受けました。これに対し、学内において希望者を募ったところ、大津、彦根両キャンパスで423人の申込があり、不足分については両キャンパスの後援会から支援を受けて希望者全員に配布することができました。後援会の皆様からのご厚情により、深く感謝申し上げます。なお、地域連携教育推進室では、学内外から賞味期限切れの近い食料品の寄付を受けて、希望学生に配布する「フードパントリー」を現在も継続中です。

さて秋学期については、感染症予

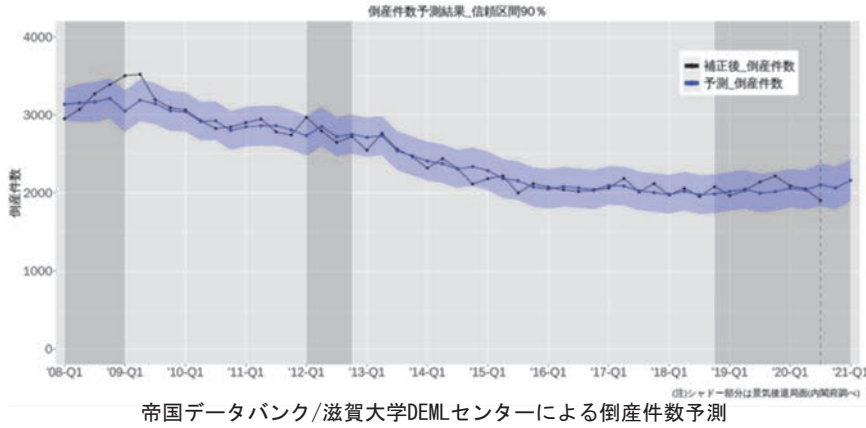
防について十分に配慮した上で、対面授業を大幅に復活させることができました。対面授業（オンラインとの併用を含む）とオンライン授業の割合をみると、科目数では若干オンライン授業の割合が高くなっていますが、それでもキャンパスに多くの学生が戻ってきました。マスク姿ではあります。やはり「学生あつてのキャンパス」であると実感を感じております。

留学生についても、一定の手続きのもと入国が認められるようになってきました。空港からの移動は公共交通機関を利用せず、入国後は2週間自己隔離を行うなど、徹底した感染症予防対策が講じられたうえで入国となります。

学生の学習やメンタル面でもサポート体制も強化しております。キャンパスライフ相談室や対面だけでなく、Zoomやメールでの相談も受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。保健管理センターでも1回生全員を対象としたウェーブ問診の実施や、オンラインでの相談を受け付けています。

新型コロナウイルスの感染状況は、国内においては落ち着きをみせてきていますが、ヨーロッパでは2度目のロックダウンに入る国がみられるなど、海外ではまだ油断を許さない地域もあります。一日も早くこれまでも通りに対面授業ができる日が来ることを望みます。本学においても、学期の途中でも感染症が再び拡大してきた場合には、必要に応じて

遠方の企業との共同研究においては、新型コロナウイルス禍以前からオンライン会議を行い、ノウハウを蓄積していました。その経験がコロナ禍によってオンライン講義を余儀なくされた



帝国データバンク/滋賀大学DEMLセンターによる倒産件数予測
<https://www.ds.shiga-u.ac.jp/DEML/results.html> 主担当：経済学部 楠田浩二

した「帝国データバンク/滋賀大学 Data Engineering and Machine Learningセンター」では、いち早く新型コロナウイルス禍による倒産件数予測モデルを開発し、10月9日に発表しました。

安心安全な キャンパスづくり

時に役立ちました。共同研究もオンライン化し、昨年までと同様のペースで進めています。トヨタグループの「機械学習実践道場」など、企業向け人材育成プログラムもオンライン化して行っています。

秋学期より一部対面授業を開始

春学期は、コロナ禍により全ての授業科目をオンラインで行っていましたが、秋学期より感染防止対策を施した上で一部の授業において対面授業を開始しました。経済学部では4割、データサイエンス学部では5割の授業科目を対面で行っています。

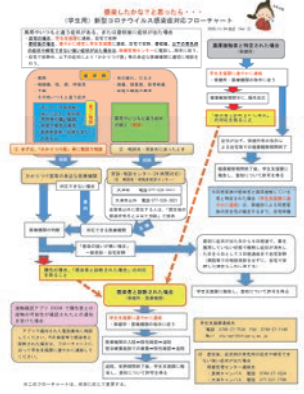
感染防止対策として、玄関には非接触型の体温計と手指の消毒スプレー、各教室の出入口には手指の消毒スプレーを設置するとともに、教室での受講においては、教室定員の半数となるよう机の使用制限を行っています。また、昼食を提供する生



協食堂においても、出入口に手指の消毒スプレーを設置するとともに各テーブルには飛沫拡散防止の衝立を設置しています。

学生には、大学ホームページやキャンパス教育支援システム（SUCES）を用いて、風邪やいづもと違う症状（発熱、体の疲れ、だるさ、頭痛、味覚や嗅覚の異常等）がある場合は学生支援課に連絡し自宅で安静にするよう指導しております。詳しくは大学ホームページの新型コロナウイルス感染症対応フローチャートを参照して下さい。

（以下のQRコードからもアクセスできます。）



新型コロナウイルス感染症フローチャート

後援会からも食料品を支援

滋賀県において、新型コロナウイルス感染症の影響によるアルバイト収入減等で、滋賀県内の生活に困る一人暮らしの大学生等向けに近江米

や食料品等の無償支援が企画され、本学では240人分の支援を受けました。学内において下宿生対象に希望者を募ったところ、大津、彦根両キャンパスで提供数を上回る423人の申込があり、不足する分については両キャンパスの後援会から支援を受けて希望者全員に配布いたしました。

配布は、両キャンパスとも6月1日（月）から開始し、抱えきれないほどのたくさんの食料品を学生は笑顔で受け取っていました。



国際交流

滋賀大学は、世界13の国と地域にある20大学及び1コンソーシアム（大学連合）と全学レベルの学生交流協定（交換留学）を締結しています。この協定に基づき、滋賀大学と相手方大学との間で学部生及び大学院生の派遣、受入れを相互に行う交換留学が行われています。

留学期間は最長1年以内で、留学

期間中の授業料は本学にのみ納入し、留学先大学での授業料は免除されません。ただし、語学力不足により語学コース履修を義務づけられた場合、費用負担が発生することがあります。また、夏季休業期間等を利用して、短期間に目的意識をもって異文化を体験できる海外研修のプログラムも実施しています。

しかしながら、現在、世界では依然として新型コロナウイルスが猛威を振るっており、人々の国際流動性が低い状況です。海外渡航に関しては、外務省海外安全情報では世界の殆どの国・地域で「レベル3」「レベル2」であり、大学として留学を認める「レベル1」にはなっていない。このような状況でまだまだ留学が再開できる見通しは立ちませんが、留学再開までに、更なる語学力の向上、スコアアップを目指してもらうため、語学検定試験受験料支援関等と協力し、オンラインを活用したWebセミナーや協定校とのWeb交流を通じて、新たな形の国際交流活動を始めたいです。

留学体験記

交換留学

サウスイースト

ノルウェー大学

経済学部経済学科4回生

高橋 優 奈

私は2019年8月から2020年の3月までサウスイーストノルウェー大学に8か月交換留学をしました。私が交換留学先にノルウェーを選んだ理由としては、日本と全く違う環境である異国の地で過ごすことで自身を大きく成長させたかったことと、留学先の観光の授業に興味があったからです。

私の留学先のキャンパスはBorlangeというノルウェーの南部の田舎町でした。周りには大学といくつかのスーパーなどしかなく、とても静かで自然豊かな町でした。スキーや標識はほとんどノルウェー語で書かれており、慣れるまでに時間がかかりました。

留学先ではBusiness Administrationの授業を履修し、国際経済学や持続可能な観光、またノルウェー語の授業などを受けていました。授業内ではグループワークやディスカッションが多く、最初は滋賀大学の授業と全く違ったため戸惑いましたが、積極的に参加することができました。観光の授業では、エコツアーリズムなどに関して学びを深めることができ、興味のあった授業を履修できてよかったです。また、ノルウェー語の授業は10か月取り続けたため簡単なノルウェー語の読み書き、会話ができるようになり、言語を学ぶことを通じて異文化理解を深めることができてよかったです。

主な協定大学一覧

国・地域	大学名
アメリカ	ミシガン州立大学連合
メキシコ	グアナフアト大学
韓国	啓明大学
中国	東北財経大学
台湾	国立高雄大学
タイ	チェンマイラジャバット大学
ノルウェー	サウスイーストノルウェー大学
オランダ	ゾイド大学
フランス	西部カトリック大学
オーストラリア	ディーキン大学

令和元年度 海外研修プログラム参加者

プログラム名	大学名	期間・時期	参加者数
イギリス研修	リーズトリニティ大学	3週間 8月上旬~	11
ミシガン州立大学 夏季語学研修	ミシガン州立大学	4週間 8月下旬~	3
タイ・エコスタディ ツアー	チェンマイ大学ほか	3週間 8月下旬~	14
韓国語・文化研修	啓明大学	3週間 8月上旬~	11
フランス語学・ 文化研修	西部カトリック大学	15日間 9月上旬~	0
オーストラリア研究	ディーキン大学	4週間 2月中旬~	17
メキシコ語学・ 文化研修	グアナフアト大学	3週間 2月中旬~	4
中国語研修	東北財経大学	3週間 3月上旬~	0

グローバルインターシンプ in シアトル 1人
経済学部、DS学部の参加者数を掲載



友人とともに

日常生活においては、ヨーロッパやアメリカ大陸から来た仲間たちと交流することができました。何度もお互いの国の料理を一緒に作って、お互いについて話す時間はとても楽しく有意義でした。また友達とノルウェーのオスロやスタバンゲルなどの美しい都市を訪れることができ、ノルウェーでしか味わえない経験を



トロンハイムにて

することもできました。

私がこの交換留学を無事に終えることができたのは、家族や友人、国際交流課様、滋賀大学陵水会様のおかげです。コロナウイルスの影響で3月に帰国した際にも手厚いサポートをしていただいたおかげで日本に安全に帰国することができました。本当にありがとうございました。

サマーセミナー

「Study Abroad in Kyoto」

データサイエンス学部1年生

石崎寛子

この講習では、日本国とその周辺の歴史に始まり、現在の国家間の関係に至るまでを学びました。一つ一つの問題に対し、当事国の両方からの見方を踏まえ、解決法について議論しました。皆、様々な事に問題意識を持っており、それらを扱う講座において、各々洞察力を深められたのではないかと思います。

講習の連絡や当日の話し合いの、全てを英語でやり取りしました。毎度、配布資料に見慣れない単語が登場しました。その中で繰り返し出てくるものは覚えることが出来、実際に使うようになりました。耳も後半になるにつれ、徐々に英語に慣れていったように感じます。知識だけでなく語彙も増えるのが、この講習の良いところだと思いました。

またその場で、英語で質問をすることで発言する度胸が付きました。そこから話が展開することもある中で、新たな知識を得る一つの技だと学びました。各人が異なる歴史観を持つ中で自分の主張をするのには、少々ためらいがありました。しかし、自分の考えを述べる練習をするのだという気持ちで参加したので、

勇気を出し発表しました。レポートの作成や、事前に準備をした上で短時間の発表を通じて、意見を伝えられたと思います。普段、初めて使う英単語を発音する時にはどうしても声がかもりがちになります。この機会は、使い慣れない単語をはっきり発音する良い練習となりました。



講義風景

長期留学を希望する者として、今回の経験は糧となると考えております。そして、これからの平和について考える、大事な要素ともなりました。現在海外へ行くことが困難である私たちのために、今回の様な貴重な機会を与えて下さり、誠にありがとうございました。

ゼミナール紹介

通常ゼミナール、略して「ゼミ」と呼んでいる授業は、経済学部は「専門

演習Ⅰ～Ⅳ」、データサイエンス学部は「実践価値創造演習Ⅰ・Ⅱ」「上級実践価値創造卒業演習Ⅰ・Ⅱ」といった一連の4つの授業科目を意味し、これらの科目は、2回生の後半に各学生の選択希望に基づき、受講クラスが決定されます。3回生春学期から授業が始まり、以後継続して4回生秋学期までの4セメスター連続して履修することになります。

ゼミは、2年間、同一のクラスで同一の教員が担当し、経済学部では、担当教員の専門分野の学問的内容について、受講生の学習・研究を指導することになっています。データサイエンス学部では、企業等と連携し、課題解決や価値創造を試みるために収集したデータのチェックを行い、データを分析し、得られた結果を考察し、問題解決を提案することを目的としています。

ゼミは少人数教育の授業科目ですが、クラスでの研究報告、発表を担当することで主体的な学力とプレゼン能力が養われます。また、クラス内での議論や共同研究、報告の準備作業、ゼミ生間の日常の交流などを通じて、論理面だけでなく総合的なコミュニケーション能力や人間関係を形成する力も培われます。それゆえ、ゼミは大学4年間の後半に配置されている主要な授業科目であり、専門教育としてだけでなく、ゼミ担当教員が学生生活や進路の相談、指導を行うことで、学生指導の面からも総合的に重要な役割を果たしています。

宮西ゼミナール

経済学部准教授 宮西賢次

「We Are No.1」宮西ゼミでは長らくこのスローガンを掲げて、経済経営系の大学教育の頂点を目指して研究と勉学に取り組んできました。ゼミで学ぶ内容は、財務諸表分析に基づく企業価値評価手法やコーポレート・ファイナンスですが、ここ数年は、PWCあらた監査法人や帝国データバンクとの共同研究の成果も取り入れ、不正会計検出システムの構築やESGなどの無形資産のインパクト研究にも領域を広げています。数年前の大学改革プラン策定に際して、データサイエンス学部の企画に携わったことから、文理融合をいち早く実践するため、RやPythonを用いた財務データ分析のトレーニングにも力を注いでいます。

当方のゼミでは、①財務分野の大学院レベルの専門性を身につけること、②海外でも通用する語学力を鍛えること、③留学やインターンシップを通じて海外経験を積むこと、これら3つの目標を定めて、日々研鑽しています。日頃のゼミでは、欧米のビジネススクールで定評のあるテキストや英語文献を活用して、3～4名のチームごとにプレゼンテーションを行い、3～4年生合同で徹底討論に励んでいます。また、グローバルな問題意識を鍛えるための



ゼミのOB・OGIによる就職セミナー@東京 2019.5

書物を多読し、同時にTOEFLなどの英語力も伸ばしています。多くのゼミ生は、3年次終了後から、世界各国での留学やインターンシップに挑戦しています。

今年度は、コロナ禍の影響が深刻でしたが、Zoomなどを活用し、従来の教室での授業を越える双方向の対話と討論を実現しました。毎年夏季休暇中に毎週実施している「8時間耐久ゼミ」も例年通りに実施でき、アメリカ、カナダ、フィリピンなどに留学中の学生も加わって活動できたことは新たな刺激となりました。また、今年度からは、外資系投資銀行や政府系機関に務めるOB・OGを彦根に招いて、データサイエンス・セミナーも実施しました。

景気悪化の影響を受け、今年度は企業の採用数も大幅に削減され、また

た大学でのセミナーや対面での面接が中止されるなかで、4年生の就職活動も先が見通せない状況に陥りました。そこで、3月から、いち早くOB・OG数百名のネットワークを駆使したサポートを新たに提供しました。海外駐在中の多くのOB・OGによるリモートでの支援も得ることができ、ゼミ生16名で以下のような内定先を確保しました。

Amazon Japan、
JAXA（宇宙航空研究開発機構）、三菱商事、伊藤忠商事、丸紅（2名）、双日、日本郵船、NHK（日本放送協会）、トヨタ自動車（2名）、クボタ、日本M&Aセンター、三菱重工、本田技研工業、花王（2名）、日清製粉グループ本社、旭化成、キーエンス、任天堂、TOTO、NTTドコモ、ヤマハ発動機、JOGMEC（石油天然ガス機構）、日立製作所（3名）、小松製作所、住友電工（2名）、パナソニック（4名）、サイバーエージェント、三菱電機（3名）
（順不同）



商社採用チームによるゼミでのセミナー@彦根 2020.2

リーマンショック、東日本大震災、そしてコロナショックと、数々の危機を乗り越えるなかで、実業界で活躍するOB・OGが蓄積したブランドと信用、人材育成の重要性を再認識することとなりました。

齋藤ゼミナール

データサイエンス学部教授

齋藤 邦彦

AIプログラミング教室で

実践力を学ぶ

齋藤ゼミでは小中学生や高校生・一般向けのAIプログラミング教室・教材開発を、彦根商工会議所との合同プロジェクトとして進めています。

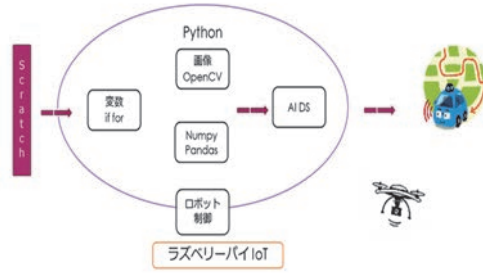


AIプログラミング教室の様子

ます。昨年度、ゼミ学生を中心にプログラミング教材の開発を開始しました。そして、開発した教材をより良いものとするために、今年の6月から小中学生向けのプログラミング教室を彦根キャンパスにおいて開催（適宜オンライン講義も併用）しています。その講義はゼミ生が講師を務めており、学生は小中学生にわかりやすく教えるために、より深い学びに取り組んでいます。

AIをプログラミング教材の中心としたのは、AIが、国が推し進める「超スマート社会」の根幹となる技術であるからです。第4次産業革命を実現するため、ビッグデータ、IoT、フィンテック、シェアリングエコノミーとともにAI技術の開発と教育が求められています。一方では、日本がAIなどの先端技術で海外に後れを取っていることも危惧されています。

小中学校でプログラミング教育も始まり、AI教育の普及も進みます。小中学生向けのプログラミング教材を開発することで、次世代を担う子供たちにAIに触れる機会を提示し、10年後の社会で生き抜く能力を培います。AIに仕事を奪われる



プログラミング教育のイメージ

プログラミングを学ぶ上で重要なことは、プログラムで何が出来るのか、何に役立つのかという学ぶモチベーションです。例えば、自動運転では、その仕組みを知り、AIカーの模型を実際に組み立て、実証実験に参加し、将来は自動運転車の開発者をめざせるような教育カリキュラムが重要です。IoTを農業に活用し、効率的な生育の管理を実践するような教育も、将来は農作業を自動化して、後継者の減った地域の農業を魅力あるものにするという社会改革につながります。

令和2年度滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会資格取得等報奨制度給付一覧

(平成31年4月～令和2年3月末日までの受領分)

分類	サポート対象事項	基準	報奨額(円)	給付件数	給付者氏名(敬称略) (回生は申請済)
資格試験・認定試験	税理士試験 (申請は、基準(1)、(2)のいずれか1回に限る。)	(1)会計学に属する科目の中から、いずれか1科目合格者	70,000	1	・清澤美正(経済学部3回生)
		2科目同時合格者	100,000	1	・安田和弥(経済学部3回生)
		(2)税法に属する科目の中から、いずれか1科目合格者	40,000	0	
	公認会計士試験	「短答式試験」合格者	100,000	3	・清澤美正(経済学部3回生) ・鈴木康平(経済学部4回生) 他1名
		「論文式試験」合格者	50,000	0	
	日商簿記検定試験	「一級」合格者	50,000	2	・鈴木康平(経済学部4回生) ・水上慶一(経済学部1回生)
	証券アナリスト試験	「第1次レベル試験」合格者	30,000	7	・GAN GUAN JACK(経済学部3回生) ・岩永佳祐(経済学部3回生) ・廣田悠人(経済学部3回生) ・井上泰地(経済学部3回生) ・五藤祐希(経済学部3回生) 他2名
		「第2次レベル試験」合格者	40,000	4	・五藤祐希(経済学部3回生) ・高橋玲那(経済学部4回生) ・井上泰地(経済学部3回生) 他1名
	データベーススペシャリスト試験	合格者	50,000	0	
	品質管理検定	「一級」合格者	50,000	0	
統計検定「一級」	「統計数理」、「統計応用」のいずれか1科目合格者	50,000	1	・大久保敬一(DS学部3回生)	
	2科目目合格者	20,000	1		
語学試験	TOEIC(公開テスト)	800点以上	30,000	21	・佐藤峻亮(経済学部4回生) ・元島由咲(経済学部3回生) ・鈴木佐和(経済学部4回生) ・小沢真里(経済学部4回生) ・小澤宗太郎(経済学部4回生) ・近藤祐紀(経済学部4回生) ・高野峻矢(DS学部2回生) ・佐藤 亘(経済学部2回生) ・川島大輝(経済学部4回生) ・遠藤彪雅(経済学部3回生) ・粥川千尋(経済学部4回生) ・小玉了一部(経済学部2回生) ・吉永敏(経済学部4回生) ・長谷川穂波(経済学部2回生) ・藤本 秀(経済学部1回生) ・酒井真央(経済学部1回生) 他5名
		900点以上	50,000	6	・田米未歩(経済学部4回生) ・河本 剛(経済学部4回生) ・阪本侑希(経済学部3回生) ・中野遼光(経済学部4回生) ・河合将利(経済学部3回生) 他1名
留学	本学交換留学制度に基づく海外留学	アジア圏	40,000	0	
		その他	160,000	2	・西内 晋(経済学部4回生) 他1名
その他	スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは団体、又は、上記1～8に相当すると思われる事項	1級ファイナンシャル・プランニング技能検定 実技試験(資産設計提案業務)	0	0	

注) 給付者氏名については、氏名を公表することの承諾を得た学生の方のみ記載しています。

「後援会資格取得等報奨制度」

資格取得等報奨制度

のではなく、価値を生み出すことのできるイノベータータイプな人材を育成し、また、中高生から起業家が育つことをめざします。

は、スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは団体を報奨することにより、学生の日頃の勉学等を支援し、資質の向上に資することを目的として、平成26年10月に創設され、その後も適宜見直しを図りながら運用しています。

今年度(平成31年4月から令和2年3月受領分)は、左表の通り、49件に対して給付されました。学生からはステップアップのための資金にしたいとの頼もしい声が聴かれ、今

後も、多くの学生諸君から応募していただけるようお願いしています。

また、学生諸君には、別途、学内においてお知らせしていますが、保護者の皆さまにおかれましても、ご覧いただいた上で、お子様にお伝えいただきたく存じます。

今後、より良き制度に改善して行きたいと考えておりますので、会員の皆さまからも是非ともご意見等お寄せいただければ幸いです。

報奨金給付者の声

『公認会計士短答式試験及び 税理士試験（簿記論）合格』

経済学部会計情報学科4回生

清澤 英正



私は、令和元年公認会計士短答式試験及び税理士試験の簿記論に合格しました。

た。税理士試験の簿記論は公認会計士試験の試験範囲とほとんど一緒なので公認会計士試験の勉強の中で受験し、合格することができました。

公認会計士短答式試験に合格できたのは、基礎論点を重点的に強化できたことにあります。公認会計士試験は難しいというイメージが強いと思いますが、実際にはいかに基礎論点を理解しているかによって合格が決まるため、通学中の電車の中やアルバイト前などの隙間時間を使って効率よく勉強できたことが一番の要因だと思えます。また、公認会計士試験は科目数が多く、すべての科目が初めて勉強する内容ということもあり、かなり苦労しました。最初はできないことばかりで勉強することが嫌になりましたが、日に日に自分

の成長を感じることで、答練で成績優秀者に名前が載ることを目標にモチベーションを維持することができました。

公認会計士短答式試験の合格は単なる通過点に過ぎません。そのため、今後の論文式試験に合格し、ここで勉強して得た知識を実際に公認会計士になった時に使っていけるようにより一層努力していきたいと思っています。

『統計検定 一級合格』

データサイエンス学部4回生

大久保 靉一



私は、昨年11月に統計検定1級（数理・理工）に合格しました。

私は滋賀大学入学以降、統計学に強い関心を持ち、熱心に学んできましたが、統計検定はその指針、あるいはペースメーカーとして、大いに役に立ったと思います。実は統計検定1級は、私にとって二度目のチャレンジでした。一度目は一昨年、二回生の冬に受験したのですが、当時は手も足も出ず、悔しい思いをした記憶があります。やはり1級合格にはある程度数学的な理解が欠かせず、数理統計学の参考書を読み込み、問題演習を

重ねるなど、相応の勉強時間が必要になります。

しかし、大学4年間で取得できないような難易度では決してありませんし、この勉強を通じて、統計解析を適切に行うための土台ができることは間違いありません。統計学に関わる学生の方には、様々な分析手法をブラックボックスのまま使わないためにも、ぜひ挑戦してみてほしいと思います。また私自身も、より一層統計学の勉強に励み、その知識を社会に還元できるように人間に成長したいと考えています。

最後になりましたが、統計検定受験にあたり、たくさんのお有用なアドバイスをお寄せくださった先生、先輩方に、心から感謝申し上げます。

『証券アナリスト試験 第1次・第2次レベル合格』

経済学部ファイナンス学科4回生

五藤 柚希



私は、昨年6月に証券アナリスト2次レベルに合格しました。

この合格は、楠田先生や北村先生をはじめとした先生方、証券アナリスト合格を共に目指した仲間たち、大学の厚いサポートによって得られたものだと考えています。資格取

得にあたり苦労したことは二点あります。一つ目が、「時間の確保」です。私はサッカー部に所属しながら、証券アナリスト2次試験合格を目指していたため、中々まとまった時間をとることができませんでした。そこで、試合会場までの電車の中や、ちよつとした信号待ちなど、あらゆる隙間時間を有効活用していました。その結果、塵も積もれば山となるのように、少しの時間の活用が合格へと近づけてくれたのかなと考えています。二つ目が、「馴染みがないこと」です。資格の内容が金融の専門知識を必要とするものであったため、学生である私にとって、理解にとっても苦しむ内容でした。そうした中で、実務経験のある先生方が、丁寧に教えてくださったおかげで、少しずつ理解を深めることが出来ました。

今後は、より経済への知識を深め、それらを活用できるように頑張っていきたいと思っています。

編集後記

後援会だよりは次のURLでもご覧いただけます。

<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

会員の皆様の記事についての感想や要望、後援会や経済学部・DS学部に対する要望、ご意見等を郵送又はFAXでお聞かせください。

〒522-8602 彦根市馬場一丁目1番1号
FAX 0749-27-1132